

# 本草圖譜

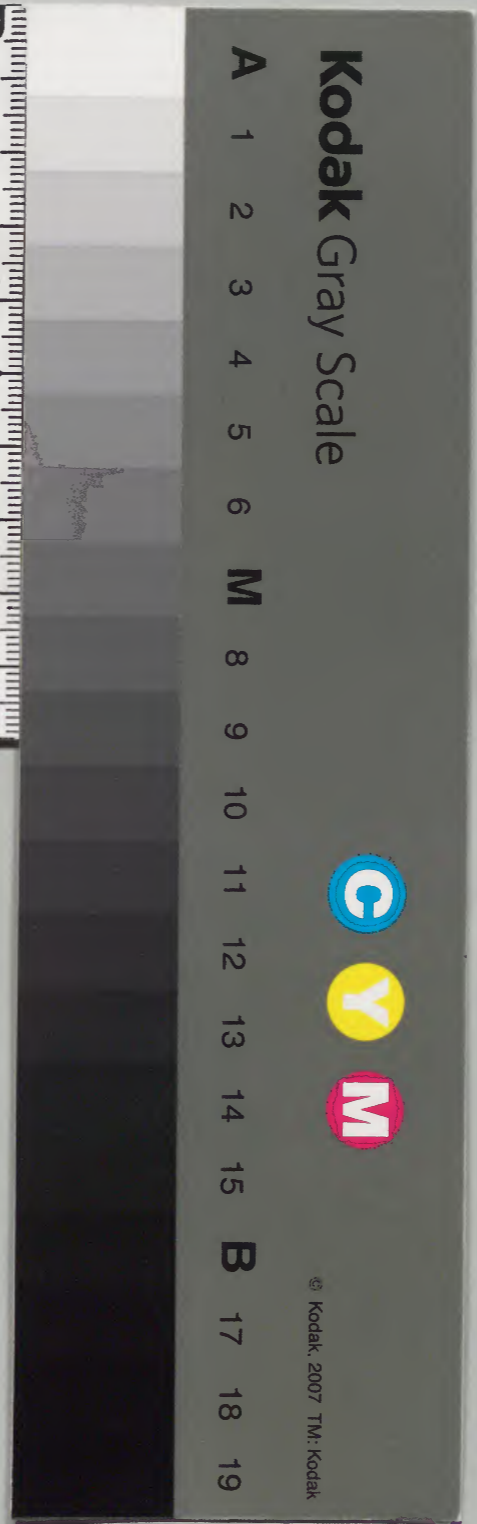
卷之五十七

和書門			
三六六	號	函	架
四九	冊		

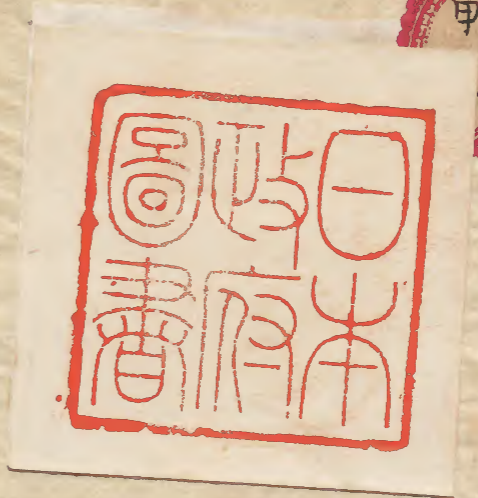
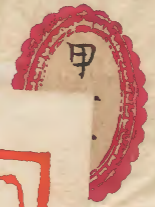
內閣文庫		
三六六	號	冊
四九	冊	架

和植物  
8  
26

內閣文庫		
番號	和	366
冊數	45	(26)
函號	196	189







本草圖譜卷之五十七目錄

菜部 芝栴類



さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ
さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ	さつしけ

本草綱目 卷之五十七



あかたけ

あかたけ

四

あかたけ

あかたけの一種

あかたけ

あかたけ

五

同

同

同

同

六

一本あめ

同

あめ

同

同

同

やくたけ

やくたけ

ぬきり

ぬきり

あめ

あめ

一種

あめ

同

同

あめ

同

同

同

あめ

あめ

あめ

あめ







葛花菜

あま〜け

へみ〜け

同

十九

同

同

同

一種

同

へみ〜け

廿

同

本草圖譜卷之五十七

東都 岩崎常正著

菜部 芝栴類

ちつちけ

糖草

吳林 草誌

諸国山野 松樹の下小初秋す 生け形状同ふりて色教品  
あり味ひ甘美ふりこれを採り岩を径又手を觸れハ背  
面とも小銅緑色を生け又虫を生け易一近観ちつちけの  
生ける処の土人微張て荒りたるを擇ひ松下のちを地  
小散し承洗水を日々澆切けハ生さる地とおのつちけ生け



さつちけ

日光菌  
譜小載  
る圖



ちつちけ

菌史小載の  
同書小載張て  
梅脚面黄赤紫  
色と帯の柄淡  
赫色柄久びて  
変して黄褐也  
とある夏初諸  
菌小載して其  
る故初菌の右  
ありとソリ



ちつちけ

楠木氏  
の圖

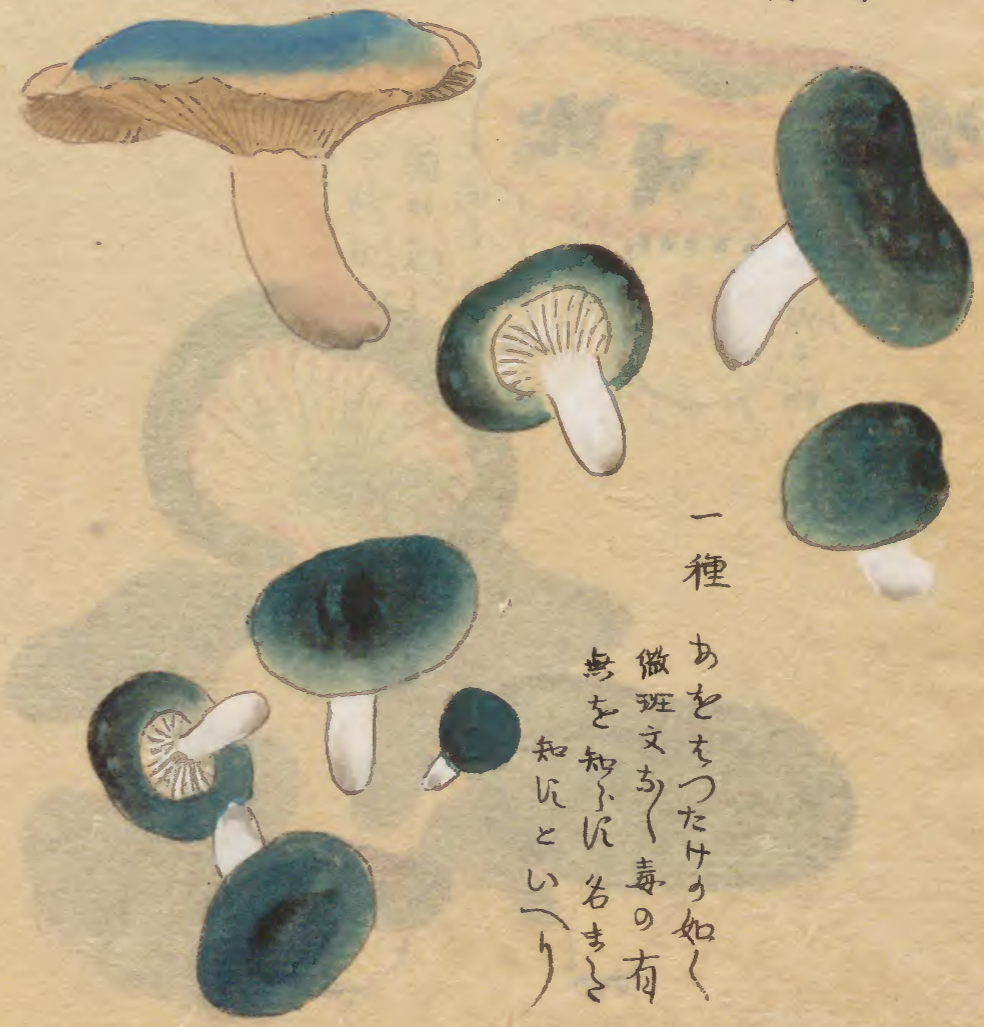




あをまつたけ

信陽菌譜に載る同  
同春五六雨を得  
て則生じ微小緑斑の  
文あり裏柄並小色白  
一味甘可愛といひ

あをまつたけ  
菌譜に載る同  
同春五六雨を得  
て則生じ微小緑斑の  
文あり裏柄並小色白  
一味甘可愛といひ



一種

あをまつたけの如く  
微斑文あり毒の有  
無を知らず名ま  
知れといひ

よしい

信陽菌譜に載る  
同春五六雨を得  
て則生じ微小緑斑の  
文あり裏柄並小色白  
一味甘可愛といひ

あをまつたけ

菌譜に載る同  
書云状まつたけに  
似て蓋嫩綠色莖  
柄とも白色あり  
毒あり食ふに  
と云へ



小くやまつたけ

日光菌  
譜に載る



きつろたけ

菌譜に載る  
同層小蓋  
薄く味は微  
く芳なりと



むらさききつろ

同層に載る同層小蓋  
鮮く紫色あるものあり香  
味亦美あり九十月間多く  
生じたり



あかきつろ

菌譜に載る同層小蓋  
同層小蓋  
紅潔  
一して愛を可きもの  
あり味は最佳あり  
九十月生じたり

あかきつろたけ

菌史に載る同層小蓋即ち神  
菌の紙楮色の物雷雨の候諸  
品小蓋で出る故亦さつたけと  
名く常陸山中多くありて人患  
匡父云とわり同書小産物寫生  
を引てこれを甚滑つこと  
あり

志きつろ

信陽菌譜に載る同層小蓋  
書小蓋つたけに似て味  
味は尤もあつた下品と  
いふなり





あかちつの一様

菌史小載圖同書小七月生いとしり皇和草譜ハ  
處々山中陰濕の処小生に  
表裏紅黄深菌莖豊  
小茎赤孔あり都て尋常  
のつたけより大而其味ハ  
太た鄙久しれハ則また  
舗を茶ハ八月を以て多  
とあらとせり

あろちつかけ

菌史小載了圖同書小状の間山野陰  
濕の処小生に形もつ菌の如く傘頭白  
色微一黄を帯る楢疎密の二西あり  
味ハ苦く食ハかゝにこりり



あをちめ

日光菌  
譜小載  
圖



あをちめ

菌史小載  
圖同書小  
靑面白薇  
形もちり  
と全とせり

やふちめ

菌史小  
載了圖





やふあめし  
又ちくかんたけ

信陽菌譜の載る圖同  
書は白色の者味は稍  
減い竹葉の氣を七レ芭  
ーといへり



やふあめし



同書に載る圖同書は夏月  
於く生じ紫色の者味は尤も  
佳し根は竹葉の氣を七レ芭  
ーといへり

あめしたけ

菌譜の載  
る圖同書は  
杖竹葉の  
似て蓋薄  
蒼白色茎  
ひかく秋月  
雨後多く生  
じといへり



あめしたけ

楠木氏の  
圖





志めしたけ

春過載、園菌史、山陰樹下  
早き湿地、多く生じ、故、名を得、形、初  
菌の如く、茎、術、長く、面、灰、黒色、又、黒  
褐、黄、黒の者あり、摘、莖、皆、淨、白、茎、鬆  
脆、滑、易く、月、滑、香、美、諸、州、皆、あり  
と、し、京、師、の、者、むと、あり、豆腐、と、全、煮  
或、ハ、薑、屑、を、下、し、或、ハ、さ、ひ、を、下、し  
治、と、初、菌、と、類、頗、り、上、下、他、州、産、ま、る  
所、ろ、別、論、せ、さ、る、又、塩、藏、及、び、乾、晒、せ  
の、亦、各、風、致、あり、言、へ、か、し、ん、と、り、り

志め

信陽菌譜に載る圖  
曰書小蓋大者これ  
小次くとひへ



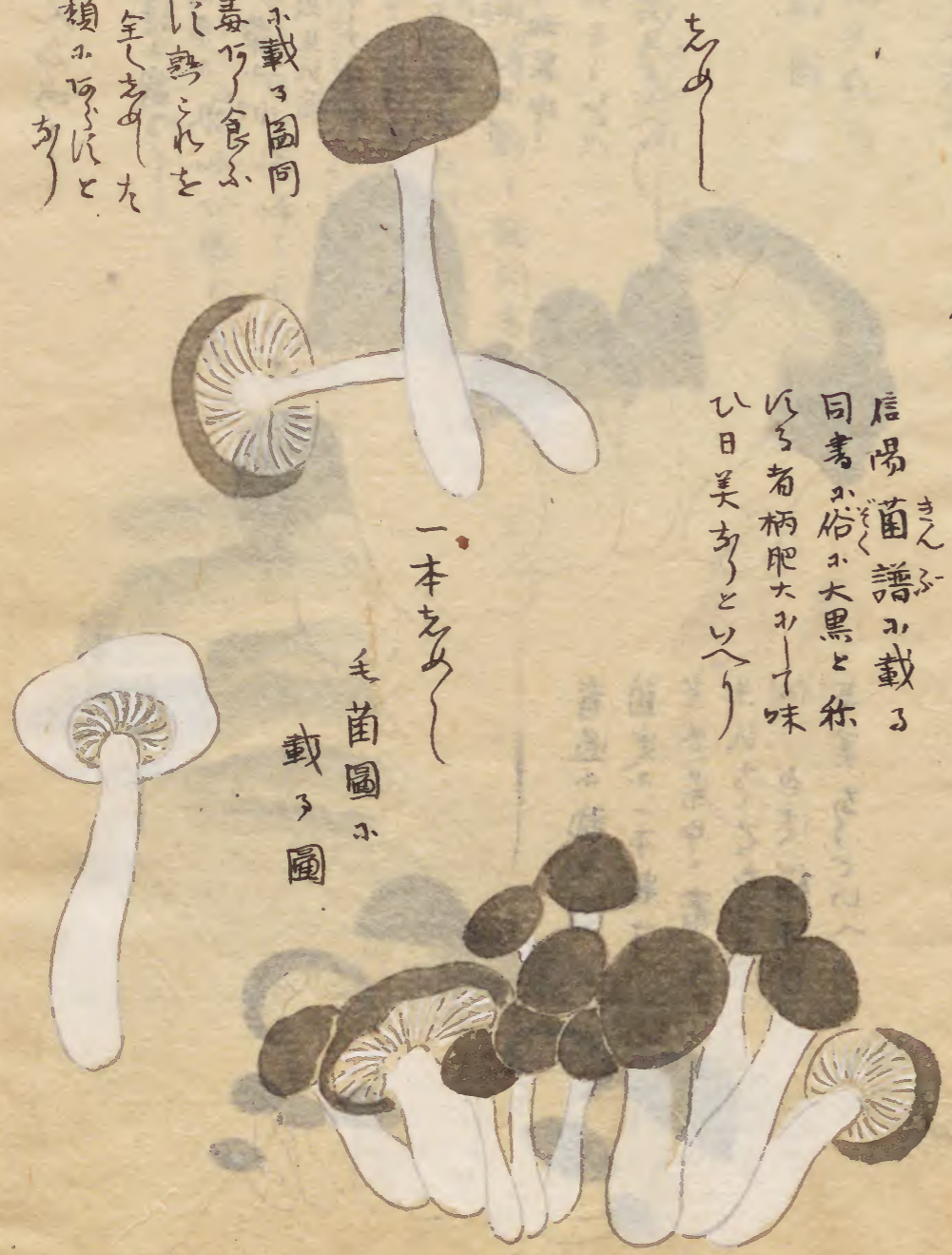
本志め

志め

信陽菌譜に載る  
同書小俗小大黒と称  
ひる者柄肥大か一と味  
ひ日美ありとりり

一本志め

毛菌圖小  
致る圖



同書小載る圖同  
書小毒なり食ふ  
へかじり熟これを  
視る全しきやた  
けの類小可なりと  
あり



せんちんちめし

菌譜に載り  
圖同書に状  
不松茸に似  
て蕭生に蓋  
小して茎肥  
たり日香口  
可亦大黒魚  
地と呼ふ形本  
聖の木黒神  
小似たるを以  
て名つくとし



せんちん  
ちめし

看過に載り圖  
菌史に一本數十  
莖茅紫中に叢  
生にさくちめしし  
似て色淡褐味ひ  
甚美ありといへり



せんちんちめし

楠木氏の  
藏圖

せんちんちめし

菌譜に載り圖同書に  
樺樹下の生に 初生大々  
本の如く後数寸頭の  
ちめし簇として生に其  
色灰白土俗呼て千本を  
やいと云ふ味ひ最と美  
ありといへり





やくらけ

菌譜に載る同書野州訃沢邑  
多く生れ其菌馬色日を経て其蓋上  
小また小菌を生れ状ちせんをめし  
の如く皆黄粉を帯ふこれを糞丸  
其粉手お着て馬効の如く毒ぢ食  
用不入ルぬと云へり

いぶこ

いぶこ

信陽菌譜に載る同書  
をめしをけお似て秋の座  
敷百葉生をあら味ひ漸減  
に中品とあらと云へり



ぬえり

信陽菌譜に載る  
同書にあらし  
似て味ひ最も  
下を食ハ腹痛  
湧下と云へり



日光菌

日光菌  
譜に載  
る菌頭  
の色やま  
なと色の  
こ



くやま

着過に載る同書  
樹多き処の産に瘦たる頭肥たる  
脚本一の叢出に五六茎或ハ七八茎  
面黒色より背白葉軟極て美軋  
て以て遠に致すへし常陸人或ハ  
名て菌たけと云へり





かき志め

楠木氏の図皇和葷譜  
小不徳佐倉まくとち葷哉  
産ひるの地或はこれき備  
前宮山に生ひる物深紫小  
して鮮明方々奇とある葷  
ありて味ひ美毒ありといへり

一種

菌譜に載る図同書小  
所在乃是あり状志め一不  
似て蓋淡紫色あるもの  
あり味ひ甘美食料不  
佳ありといへり



かき志め

菌譜に載る図  
同書小状志め  
小似て蓋短し蓋  
黄褐色板の紅  
葉小似ふ名つ  
といへり

かき志め

楠木氏  
の圖



かき志め

信陽菌譜に  
載る図同書小  
秋小く面紅紫  
色柄と蓋と皆  
白し一種形色  
似て粘滑の者  
毒ありこれを  
食し腹瀉いと  
いへり





ききめし

者區々載る同菌史ハ  
蓋錢の大きの如く面黄  
黒褐と茎と皆深黄初  
り地上ハ一尖を茎一稍  
久しうて蓋茎分る茎肥  
て中実一霜を得て最し  
盛々菌の麩生れるもの  
北山及び二伊詭山に生に  
靱滑鮮美関東中これ  
か一傷く勢人往々蓋蔵  
致一江々本中稀に貨  
せり云ありと云



ききめし

信陽菌譜に載る同蓋  
柄より黄色味ハ減り下品  
と云んと云へり

ききめし

菌譜に載る  
同書ハ黄  
色ありと云あり  
味ハ微しくか  
しと云ありと云

ききめし

楠木氏の  
圖



きんたけ

あめしの類にて  
秋遠く生れ食  
用ハ二品也



小あめし

菌譜の載  
了因同書小  
状をみたる  
けり以て蓋  
臆脂の如  
く其柄及  
ひ茎白色  
あつ蝦夷の  
人ウ子ア  
ことよ味  
淡薄の毒  
あり



あかあめし

菌譜の載  
了因同書小  
状をみたる如  
く蓋黄赤  
色柄柄とも  
白色ありといへり



菌史の載了因同  
書小流紅緑脚味  
ひ方れりといへり



やふあめし

菌史の載了因  
同書小牛の御前  
祠後ろ小生い  
といへり



やふあめし

同書小載了因同書小  
あめし小似て質瘦白  
柄面諸色中虚荏や  
きく夏秋の間多く竹  
林中小生いといへり



小せあめし

菌譜の載了  
因同書小櫛樹  
林中の生い玉  
川辺の土俗食  
たりといへり  
又市中小生い  
味甘美といへり



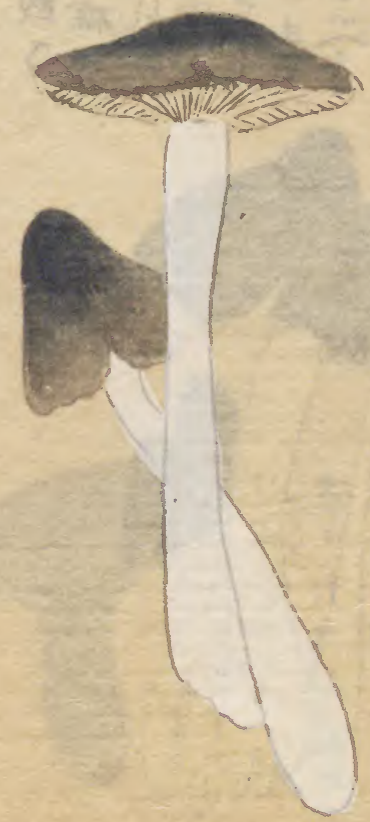


あしあめ

菌譜の載る図同  
昏の状あめたけ不  
似て茎長く蓋下微  
しく黄色を帯ふ霜  
後多く山陰の生じ  
其味ひあめのか次と  
いへり

あしあめ

信陽菌譜の載る図  
同書に霜後山陰の生  
じ味ひあめたけ不  
減りといへり



くろあめ

菌譜の載る図同  
書に一種のあめとの  
之九月多く生じ蓋  
淡黒色にあめ  
といふといへり

くろあめ

日光菌  
譜の載  
る図

あつたけ

毛菌  
の載  
る図





あーたうあめー

菌史不載、因  
産物<sup>ジヤセ</sup>生<sup>ハエ</sup>カ  
一<sup>ハ</sup>似て長脚面  
褐色又淡赭色  
の者<sup>チ</sup>底白く  
摺<sup>サ</sup>敷<sup>キ</sup>食<sup>ハ</sup>へ  
か<sup>ハ</sup>いと<sup>シ</sup>



あーくうあめー

菌史不載、因  
産物<sup>ジヤセ</sup>生<sup>ハエ</sup>カ  
一<sup>ハ</sup>似て淡黄長  
脚<sup>チ</sup>微<sup>シ</sup>き者<sup>チ</sup>  
質<sup>チ</sup>甚<sup>シ</sup>韌<sup>シ</sup>赤<sup>シ</sup>食<sup>ハ</sup>  
へ<sup>カ</sup>いと<sup>シ</sup>





つちかむし  
ぬのむき  
日光菌  
同書小載

信陽菌譜小載の図同書小  
土砂をかぶむして生じ故に  
名はく下品とありたり

あろちりけ  
同書小載  
の図



つちかむし

着過小載の圖菌  
史小載張て大者七八寸  
尺余に至る四の面  
肥たる質殊脚深褐  
菌の尤も蒼黒あり者  
あり純白或は黒黒を  
帯ふ又黄楢の者あり  
初生土を載て出づ致  
小土被の名ありある  
然陰湿の土比白あり  
り外皮を去り塩水  
小浸し者を経啖して  
味は佳あり或はソコ  
毒あり食ふべからず

つちかむし

着過小載の圖  
菌史小純白の  
物とあり





あいたけ

菌史不載の圖  
同書秋の山林  
中か生ハ傘薄く  
径寸許り青碧  
色ニ脈を捫リ予  
を染へ一皆微  
穿孔あり茎細  
く背キ白色  
油の臭あり此  
菌初生ハ身  
ち縁を張リ  
諸菌ハ異あり  
漸次て張大  
ちとり



あいたけ

毛菌圖  
の載る

菌史不短脚肥頭甚微を張リ  
質白く銅綠色の点攸あり蓋莖  
皆硬く佳し易かり五六日す  
秋に至りて盛ハ生ハ味ハ乳菌  
似て稍淡く練馬八王子の人  
多くこれを食ふとり



くらたけ

着過不載の圖  
菌史かあいたけ  
か似て秋稍瘦  
者あるとり

あいたけ



信陽菌誘不載の圖  
やまぐさ菌ハ似てこれ  
と破れハ藍の色をあら  
味ハ冷美とり



あいたけ

菌史の載る因  
同書ハ壬申の四  
月某氏園中朽  
壤中ハ産ハ大  
者尺餘ハ至ト  
リヘリ



冬夕 藁集 解集 せうろ 松露 録 傳信 地 賢 廣東 新語

大和本草ハ松林の中白沙ハ生ハ冬春の間雨後ハ生ハ松氣  
あり味ハ美しく性ハろし毒あり病人食ハ害あり然も生物ありハ  
瀉痢ハ食ハへかりハホハたるハ害あり其取田ハ大ありハ梅  
子の如ク牽茎あり黄白三種あり皮の中純きみりて柔軟あり其  
了を上品たり俗ハ餅松露ト云其次ハ淡白脆鬆あり其  
次ハ黄黒あり是下品あり一日をへてハ味おとる新をよしと  
ハ日を磨敷易し食ハへかりハ白き新く大あるをとり洗ひて  
沙を去り煮てもやまても食ハ又沙ともふ切て斤とあり一日ハ  
まし遠きハ寄ハ味ハよく塩ハ臈をくも佳山ハ生ハる毒  
あり食ハへかりハとリハ近年松露の老成るを擇ひよく細ハ  
切りハ柄を作りこれを蒸て土をちちひ置ハ生せざる地ハ又  
生ハこれをつくら松露といふ

本草綱目 卷之五十七 十七



せふろ

省<sup>えん</sup>過<sup>り</sup>載<sup>る</sup>因<sup>る</sup>菌<sup>史</sup>小<sup>海</sup>濱<sup>の</sup>  
松下砂壤の中<sup>の</sup>生<sup>ひ</sup>春<sup>の</sup>末<sup>夏</sup>小  
至<sup>り</sup>最<sup>し</sup>多<sup>し</sup>芝<sup>あ</sup>く蓋<sup>あ</sup>く秋<sup>ち</sup>  
彈丸<sup>の</sup>如<sup>く</sup>或<sup>ハ</sup>沙<sup>土</sup>を載<sup>き</sup>或<sup>ハ</sup>地  
上<sup>の</sup>礫<sup>塊</sup>を黄<sup>白</sup>淡<sup>紫</sup>黄<sup>褐</sup>紫  
黒<sup>の</sup>敗<sup>色</sup>あり更<sup>ハ</sup>淨<sup>白</sup>の者<sup>あり</sup>  
毛<sup>ハ</sup>佳<sup>雅</sup>者<sup>稀</sup>延<sup>膏</sup>辛<sup>味</sup>ふれ  
ハ則<sup>チ</sup>乳<sup>淡</sup>甘<sup>微</sup>一<sup>松</sup>氣<sup>あり</sup>といへ

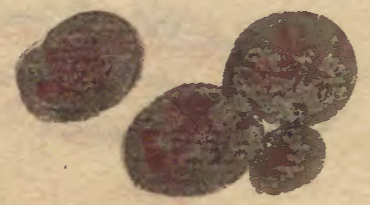
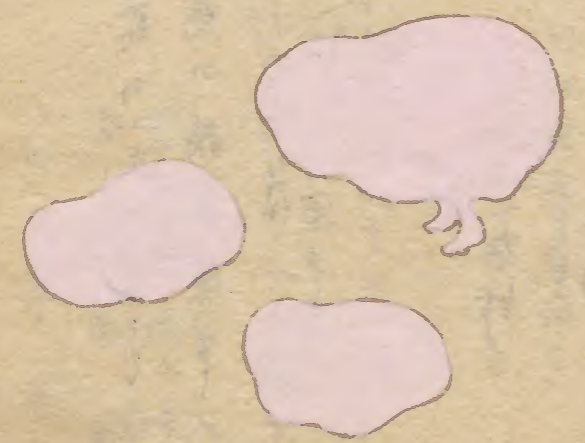


せうろ

菌譜<sup>ハ</sup>載<sup>る</sup>因<sup>る</sup>同<sup>書</sup>ハ  
多<sup>く</sup>松<sup>原</sup>沙<sup>土</sup>中<sup>の</sup>生<sup>ひ</sup>  
其<sup>色</sup>微<sup>一</sup>赫<sup>紅</sup>あり  
き<sup>ハ</sup>扁<sup>あり</sup>味<sup>ハ</sup>ひ  
脆<sup>美</sup>傳<sup>信</sup>録<sup>ハ</sup>松<sup>露</sup>化  
一<sup>テ</sup>土<sup>ハ</sup>入<sup>り</sup>菌<sup>と</sup>あり教  
品<sup>あり</sup>一<sup>種</sup>黄<sup>色</sup>あり  
味<sup>ハ</sup>佳<sup>あり</sup>又<sup>一</sup>種<sup>あり</sup>  
松<sup>露</sup>あり味<sup>ハ</sup>微<sup>一</sup>苦<sup>し</sup>  
下<sup>品</sup>といへ

せうろ

信陽菌譜<sup>ハ</sup>載<sup>る</sup>  
因<sup>る</sup>同<sup>書</sup>ハ海<sup>濱</sup>  
松<sup>下</sup>西<sup>三</sup>種<sup>あり</sup>  
信<sup>州</sup>三<sup>種</sup>俗<sup>ハ</sup>栗  
松<sup>露</sup>と稱<sup>あり</sup>  
といへ





葛花菜

菌史小大和諸山ノ葛ウ茂密處ニ生ハズ小く色蒸暗ノ如クハオタケと絶相似たり即ち葛ノ精蒸蒸せられて成リ所といヘリ田村氏能州方言ふ一ノ花ヲケ一名霜と一と云能州多クあり江戸小ありといヘリ

オモタケ

楠本氏ノ圖



毛菌ノ圖

ハオタケ



ハオタケ

信陽菌 譜ノ載リ 四回各ヨ 和漢三才 図會を引 毒アリ 此れを食ハ 吐血して死 者信州ハ 多クといヘリ



ハオタケ

省過ノ載リ 菌史小取ありハ似て 稍カク面深紅カクテ 深アリ菌と莖と皆 淨白在と云う陰濕 ノ地皆あり毒アリと リ(トモ人を害ハス) 小至クハ或ハ白外皮 を去リ此れを食ハ毒 ありと松園ま道云 といヘリ



皇和葷譜小東都近道の者 多くハ毒葷ニ蓋一椀葷アリ といヘリ宜ク擇ふ



本草綱目 卷之五十一

へふたけ

菌史  
載了  
回

一種

神本氏の  
図小暑の  
生に表に  
紫裏白と  
いへ



へふたけ

菌史  
載了  
回

へふたけ  
一種

同書  
載了  
回



へふたけ

日光菌  
譜  
載了  
回



へふたけ

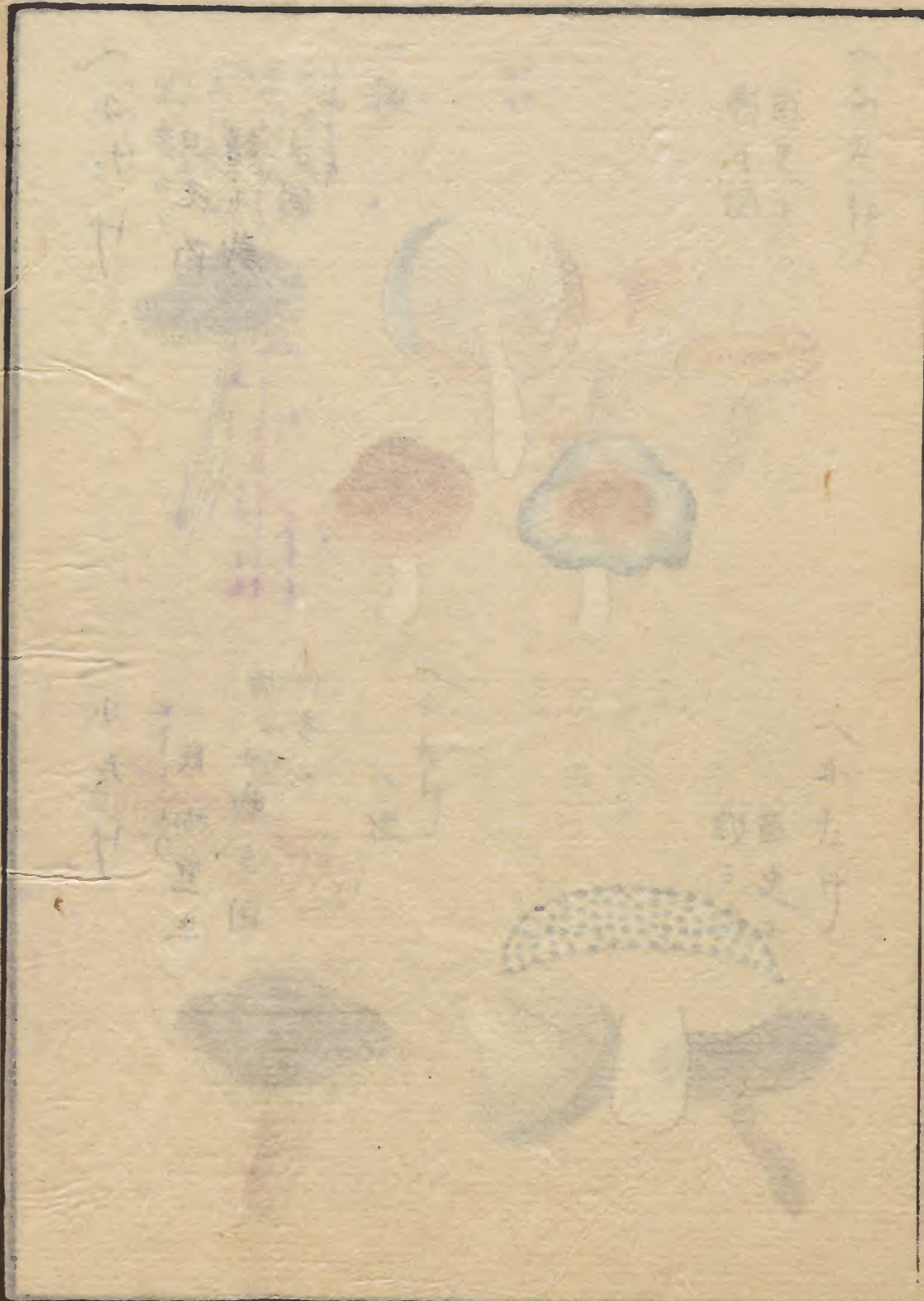
底物寫生  
載了  
回



本草綱目 卷之五十一

二十





本草圖譜卷之五十八目錄

菜部 芝栂類

あいたけ

一 同

同

二 白あいたけ

あいたけ

志やうじん

志やうじん

志やうじん

えきたけ

三 同

ぬのむす

同



ぬのひき

いぬのひき

志がぬすき

五

めぬあぬすき

志あうこぬけ

六

まいぬけ

つるんけ

七

同

同

八

こらたけ

あたら志め

九

こ志よりさ

たいつきたけ二種

十

いそむさき

かつかさき

十一

てんくのひき

シエンクスワーチユス

十二

すたけ

十二

たまごたけ

十三

へるたけ

きぬあさたけ

十四

同

てんくぬけ

十五

てんくたき二種

てんくたけ

十六

同

同

十七

一種

ぬめりいんち

十八

あらいんち

やまどりいんち

十九

やまどりたけ



こもとふといらち

とふいらち

黒いらち

十七

およいらち

同

十八

およいらちの一種

同

同

まんとまのい

まんとまのい

まいのふ

十六

はいとりたけ

天花てんくわ 蕈たけのこ

本草綱目 卷之五十八

東都 岩崎常正 著

男 岩崎信正 校

門人 小山廣孝 校

菜部 芝栴類



ち、たけ

肴過不載る図  
菌譜子林水翁  
蔚の處往々生に  
於黄或は淡赭色  
楢白く微一黄を  
帯ふ志おたけに似  
て稍瘦これを損  
すれ白濃汁あり  
これを水に浸せハ  
即ち正耳滑淑腫  
氣あり美とか一  
膳子供に甚佳に  
乾蓄者尤妙と  
いへり



ち、たけ  
肴過不載る図



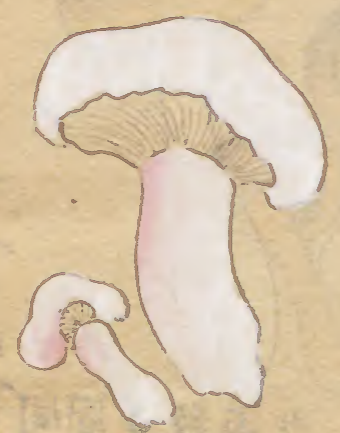
ち、たけ

あかちたけ 下野

菌譜子載る図同書子状  
たろたけに似て肥厚に似  
解るとさハ白汁を出に  
蓋赭黄色蝦夷の人トイ  
カルレと云食すへといへり

白ち、たけ

同書子載る  
図同書子蓋  
茎とま白色  
ありとのあり  
味微辣といり



ち、たけ  
日光菌譜  
子載る図





志やうりん

信陽菌譜  
子載同書  
子微者  
柄長く楕面  
白背味い美  
美里人言近  
郷澤見寺僧  
始て採是を  
食故子名  
とソへり



志やうりん

同書子載  
同全書子  
茎肥微子皺  
紋あり黄褐  
色底子襖を  
生すソへり

志やうりん

菌譜子載同書子蓋薄く  
茎長く冷黄色茎白色有此種  
食品子入れ寺僧初てこれを食  
山後人多く採食す味冷泊とソへり



すまやけ  
あめのひや

信陽菌譜  
子載同書子  
てきの花開く  
時此物盛りと  
故子名く又秋雨  
の後或山或  
林下子叢生に  
練布せ引如く  
故子又あめのひ  
と名く蓋極並  
子冷黄色味甘  
く日子乾り又  
佳甘味生の物子  
減とソへり



すまやけ

菌譜子載同書子此菌  
てきの花盛に開く時山腰林下  
子多く生す故子名く蓋並子  
冷黄色味甘香食ふへり





ぬのひき

菌史は載る図全書は純白にして  
蓋薄く縁上は向ひ背に毛刺  
有り腐たけに似て茎瘦中込の  
本硬く未柔は夏秋の間茅茎の  
中及樹陰に生れ数茎綿連且数尺  
これを望み奥布の如く以て名を得  
又淡紅色の物あり形稍大三河人  
これを忘らくにせしむ微し軟し  
甘滑最も宜く美と云ふと云へり



ぬのひき

産物字生に載る図  
去く暮秋林野に生ず  
織りて白色より褐  
色を帯ふ根は細弱  
あり形おのすいさ  
似て更し肥茎甚短く  
一簇延且り数百茎に  
至る味ひ少く苦く之  
を燥したるやりのみそ  
や調へ食又晒乾美  
と云ふ甚佳と云へり

ぬのひき

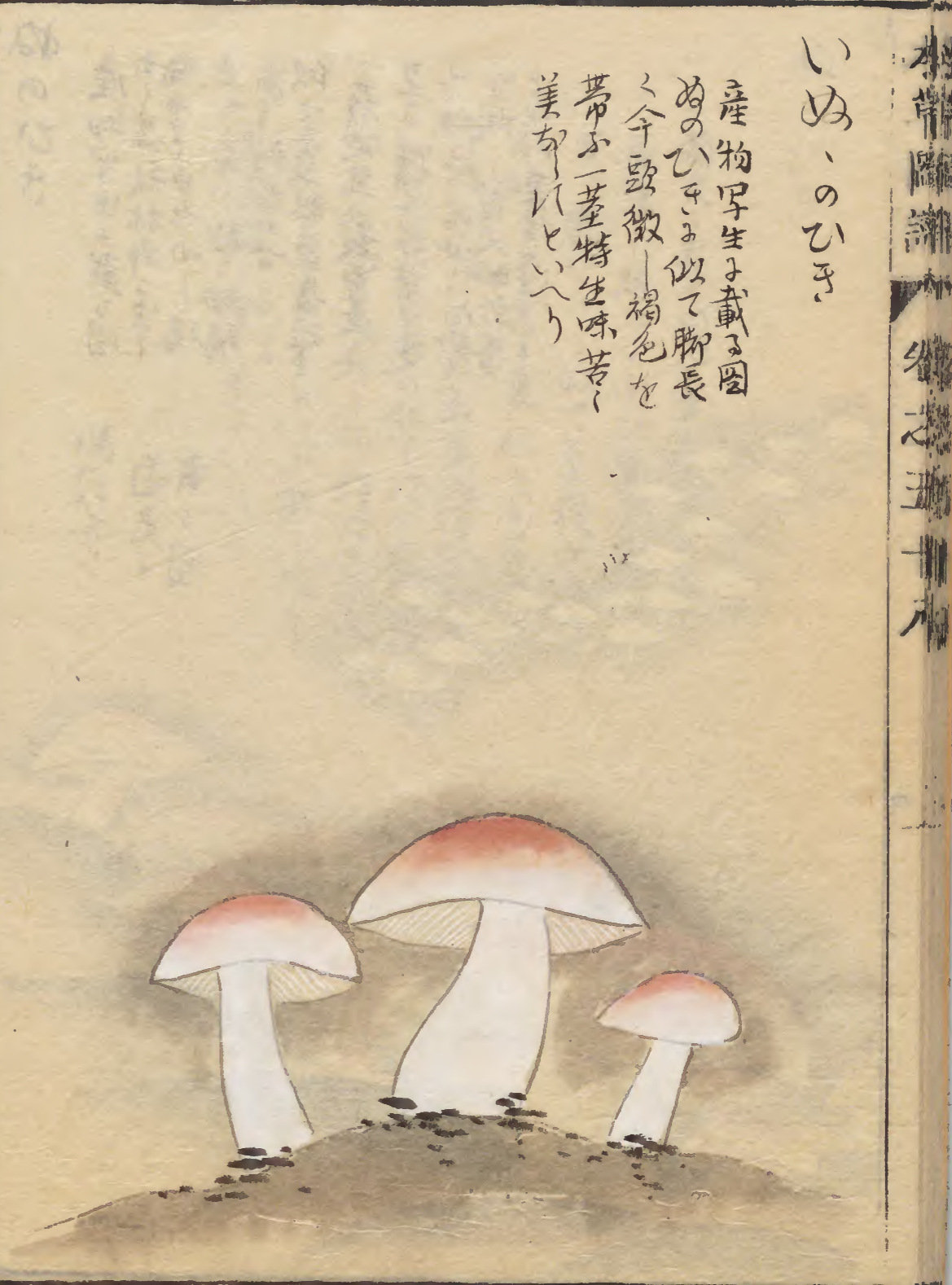
菌史に  
載る図





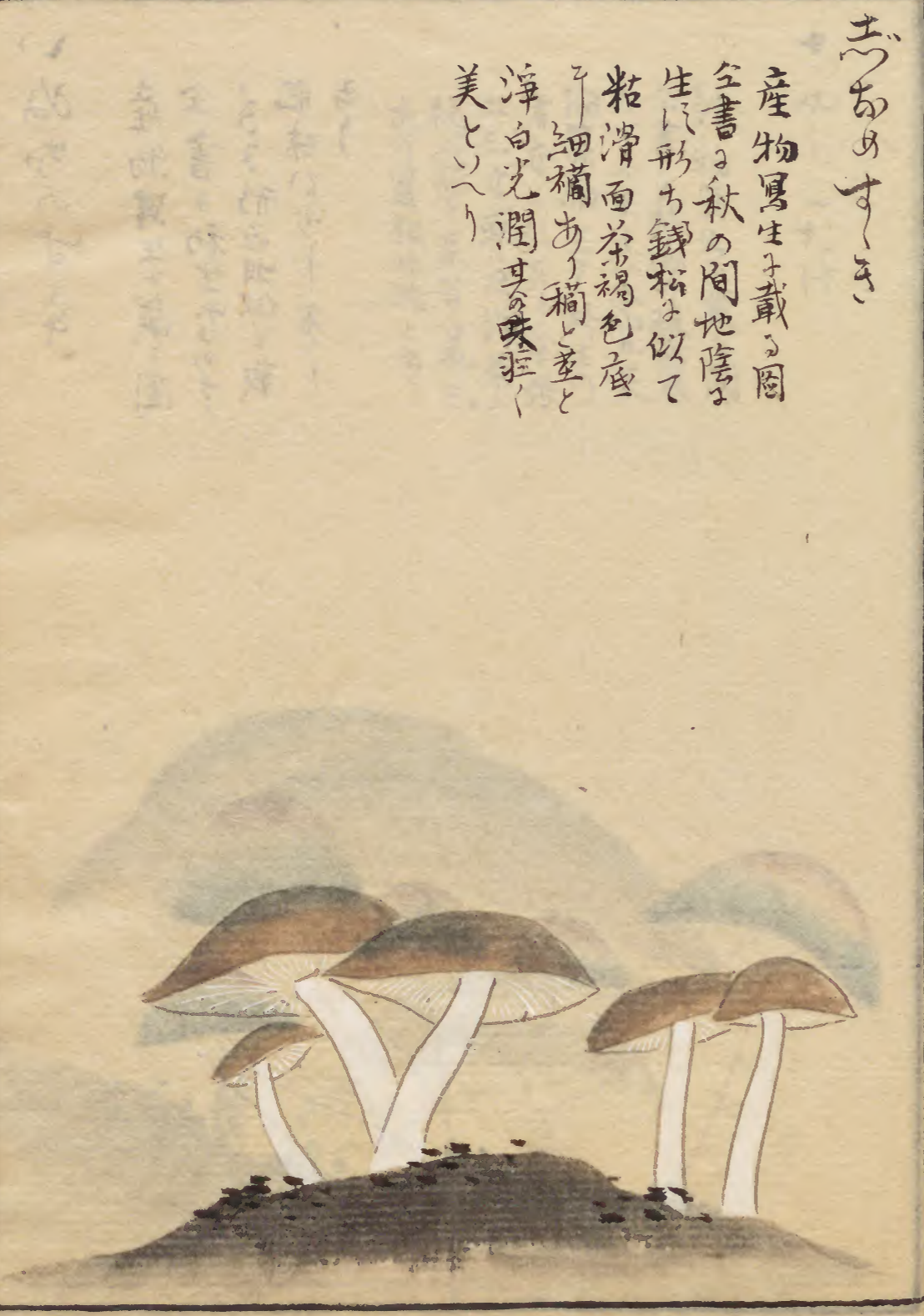
いぬ、のひき

産物写生子載る因  
ぬのひきも似て脚長  
く今頭微し褐色を  
帯ふ一茎特生味苦  
美なりといへり



エッ、あめすき

産物写生子載る因  
全書に秋の間地陰に  
生に形ち錢松に似て  
粘滑面茶褐色を底  
に細穢あり穢と茎と  
淨白光潤其味非  
美といへり





いぬちのすけ

産物寫生に載る図  
全書に初生大のすけ  
の形を相似て載  
肥味い少く者あり

いぬちのすけ  
産物寫生に載る図  
全書に初生大のすけ  
の形を相似て載  
肥味い少く者あり



たやいこたけ

諸物寫生に載る図  
全書に秋雨の後香米  
の下小生一本四五茎  
倫簇而生す特生の  
者亦これあり傘張  
二三寸或は尺許茶の  
褐色背茎皆白也毛  
あり質穀味酸と云り





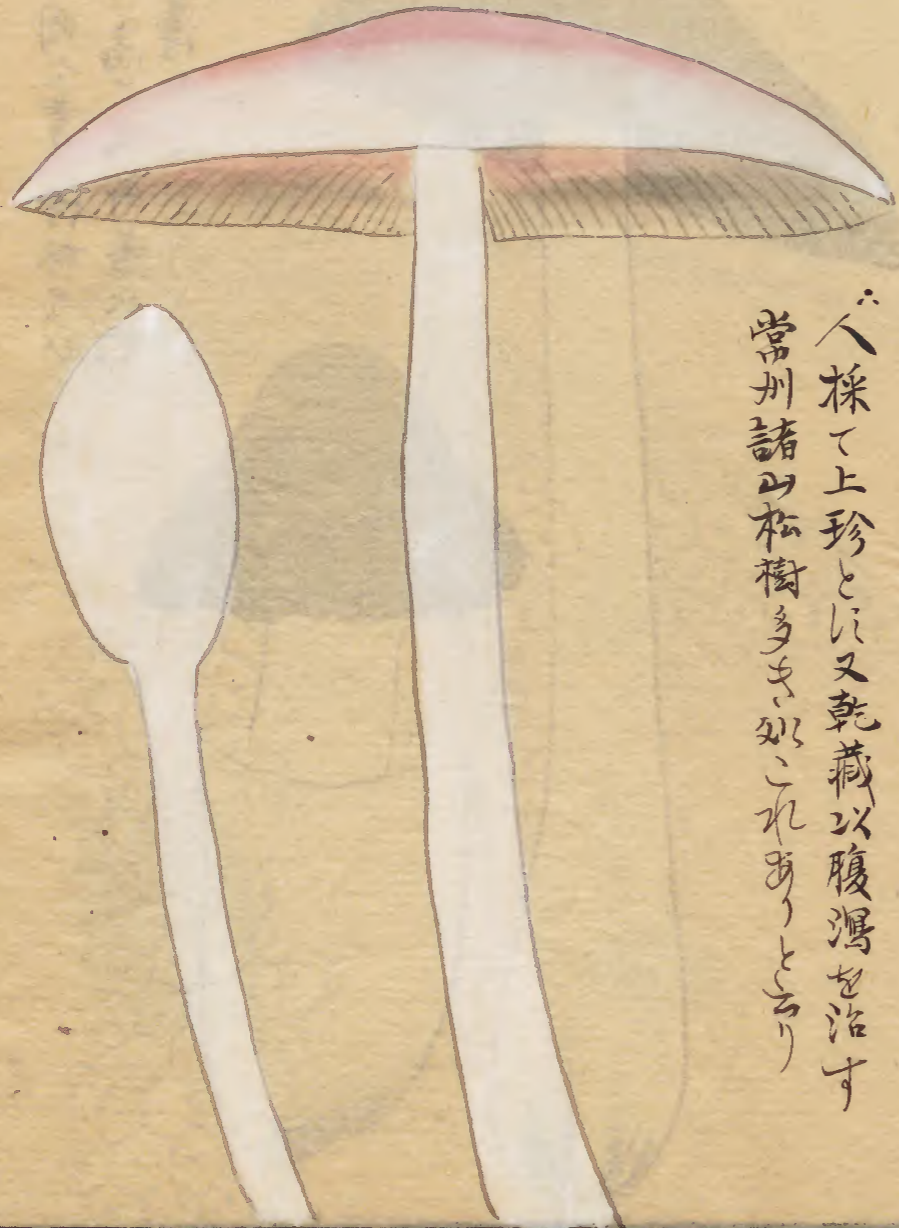
まいたけ 同名

菌譜に載る図  
全書に山林中子生  
形布引たけ  
子似て大なり  
黄色煮るとさう  
紅色子変す味ひ  
最美なり食すべ  
と云へり



つるたけ

唐物字生  
子載る図  
菌史に始  
て生る地  
を出て鶏  
子の如く漸  
く茎長く  
護膜裂て  
綴張り大  
さ盆皿の如  
く質瘦物  
高く身色澤  
白微紅色  
を帯ふ身  
名蓋形を  
象かり滑  
美山中の



採て上珍といふ又乾藏以腹瀉を治す  
常州諸山松樹多き処これありと云り



つるだけ

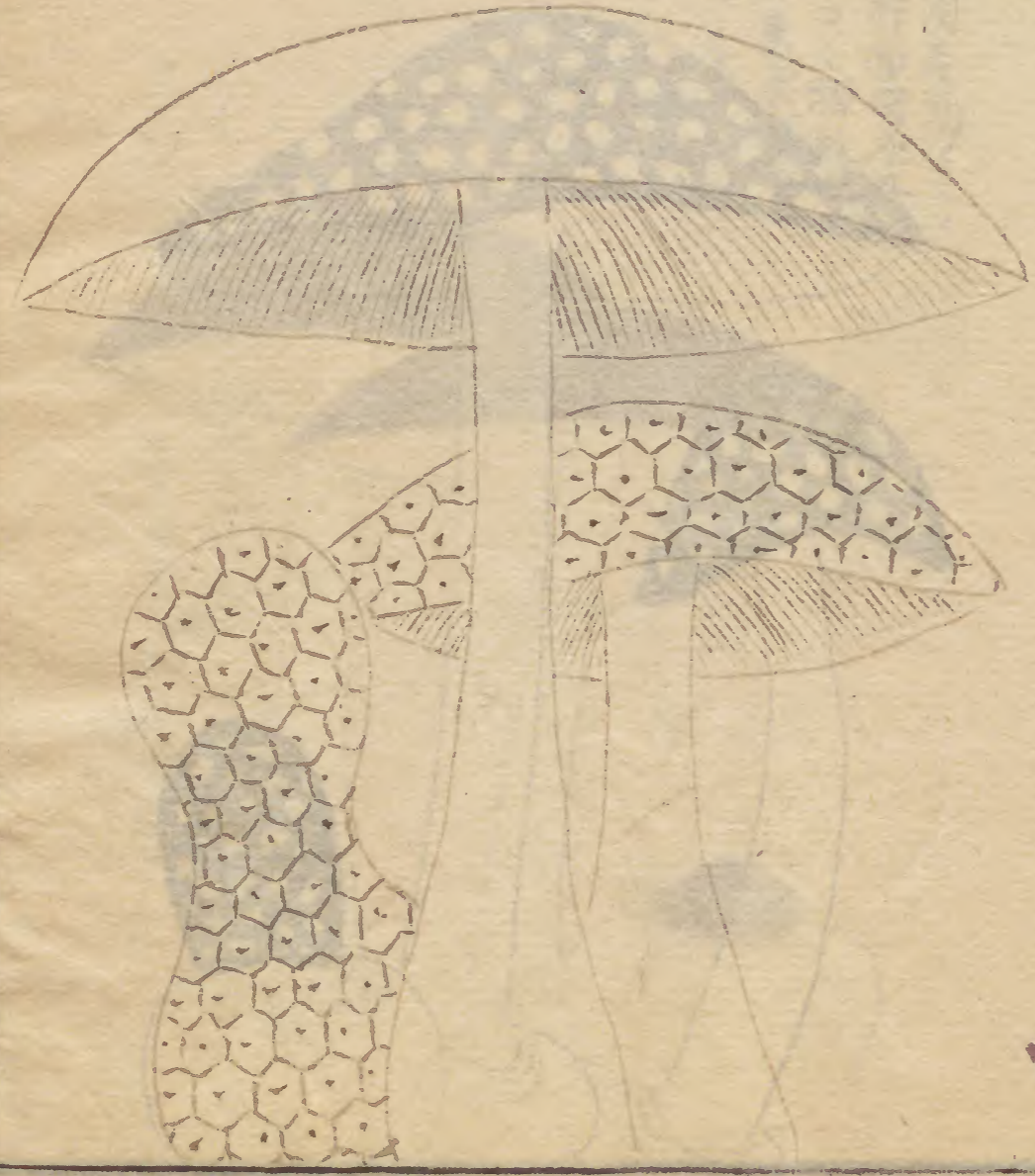
菌譜小載る図全書に竹林及び  
道傍のあり高さ尺許蓋灰色  
茎白色味淡薄なりと云り



此菌は竹林及び  
道傍に生ずるものなり  
高さ尺許蓋灰色  
茎白色味淡薄なり

へるだけ

廢物写生  
子載る図





こころたけ

度物写生子  
載る菌史  
子綴張て茎二  
三寸大者四五寸  
子至る面紫白  
点あり脚長さ  
尺脚と柄と皆  
淨白初生白点  
甚密漸疎と  
か之を食へハ  
吐リ 武八  
九月野子生すと



あーやう志めー

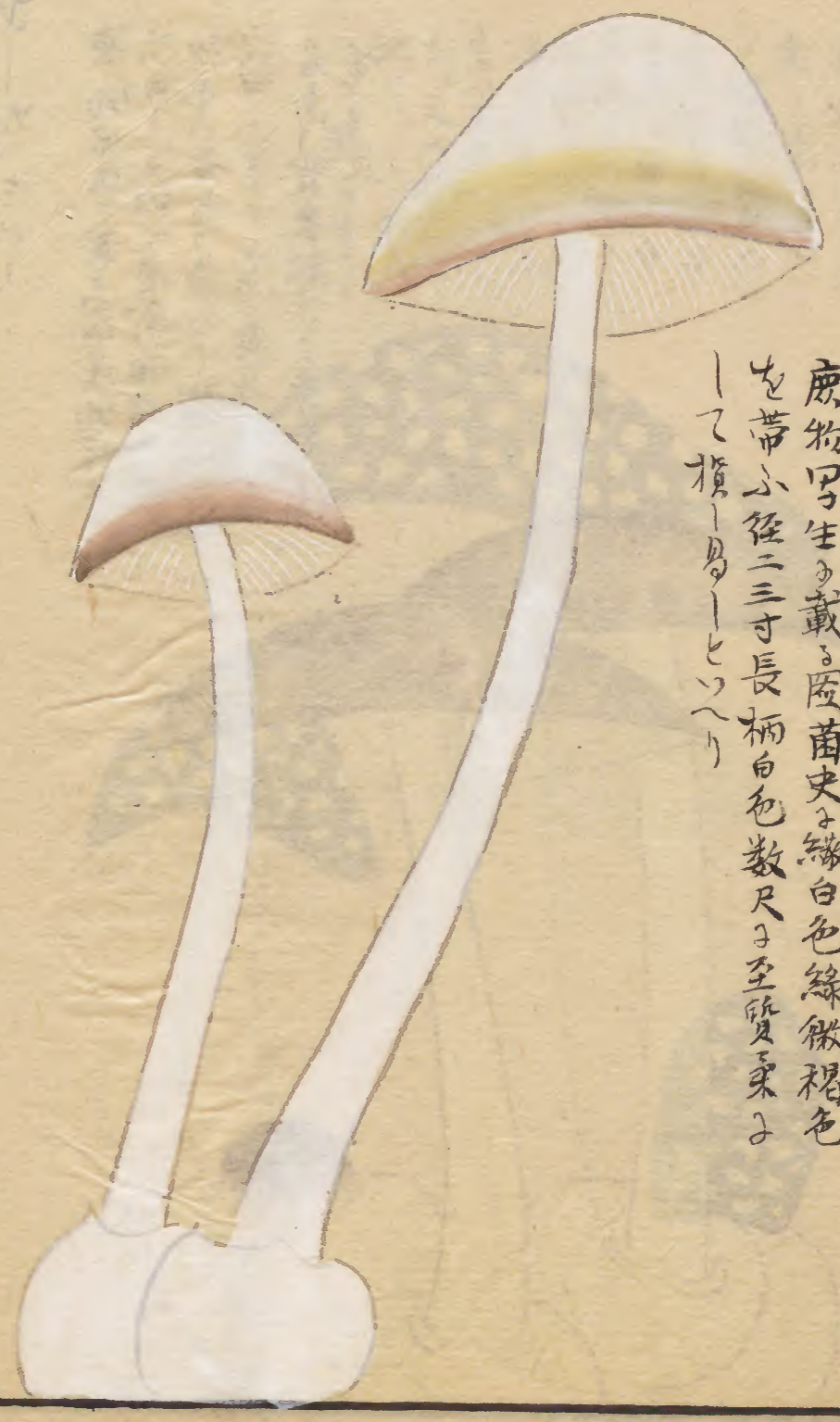
度物写生子載る菌史物写生子  
志めー子似て長脚面褐色赤  
褐色の者あり底白く摺紋あり  
一種子傘中にて淡黄長脚微白  
者あり質甚韌共子食すべし  
すべし





こまよか 御所今様

原物写生の載る菌史の綴白色縁微褐色  
を帯ふ径二三寸長柄白色数尺に至る柔子  
して指一握一握とあり



たいつきたけ二種

菌譜に載る菌史の綴白色縁微褐色  
を帯ふ径二三寸長柄白色数尺に至る柔子  
して指一握一握とあり

いんむしとけ

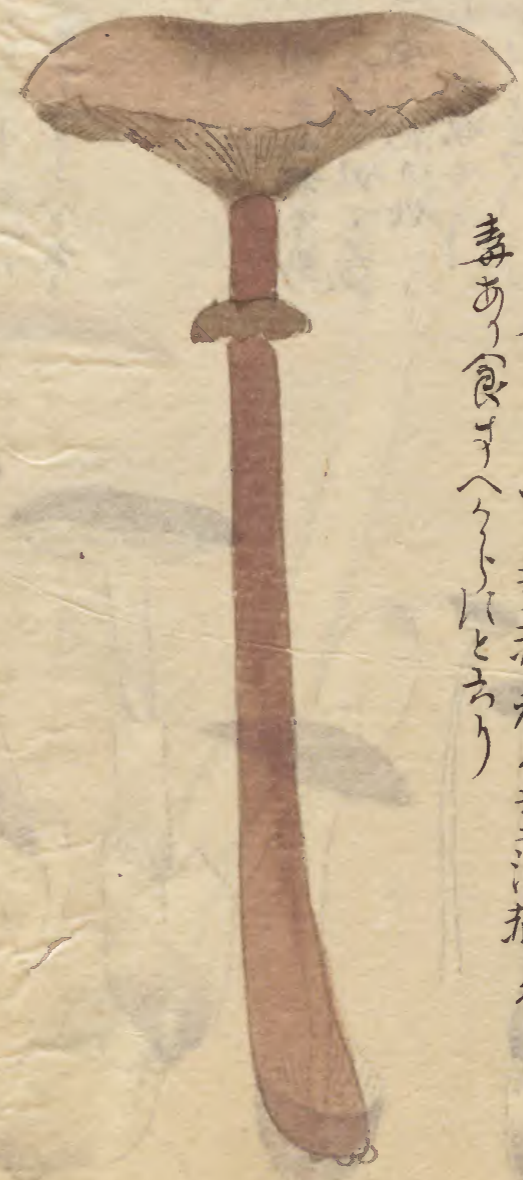
全書に載る菌史の綴白色縁微褐色  
を帯ふ径二三寸長柄白色数尺に至る柔子  
して指一握一握とあり





かゝいふもたけ  
のふたけ

菌譜に載る菌全書に状せられたけに似て  
茎の長一七寸蓋の廣さ九寸柄の下に  
粥の如きものあり蓋赭褐色茎は赭色  
毒あり食すべからず



てんくのふたけ

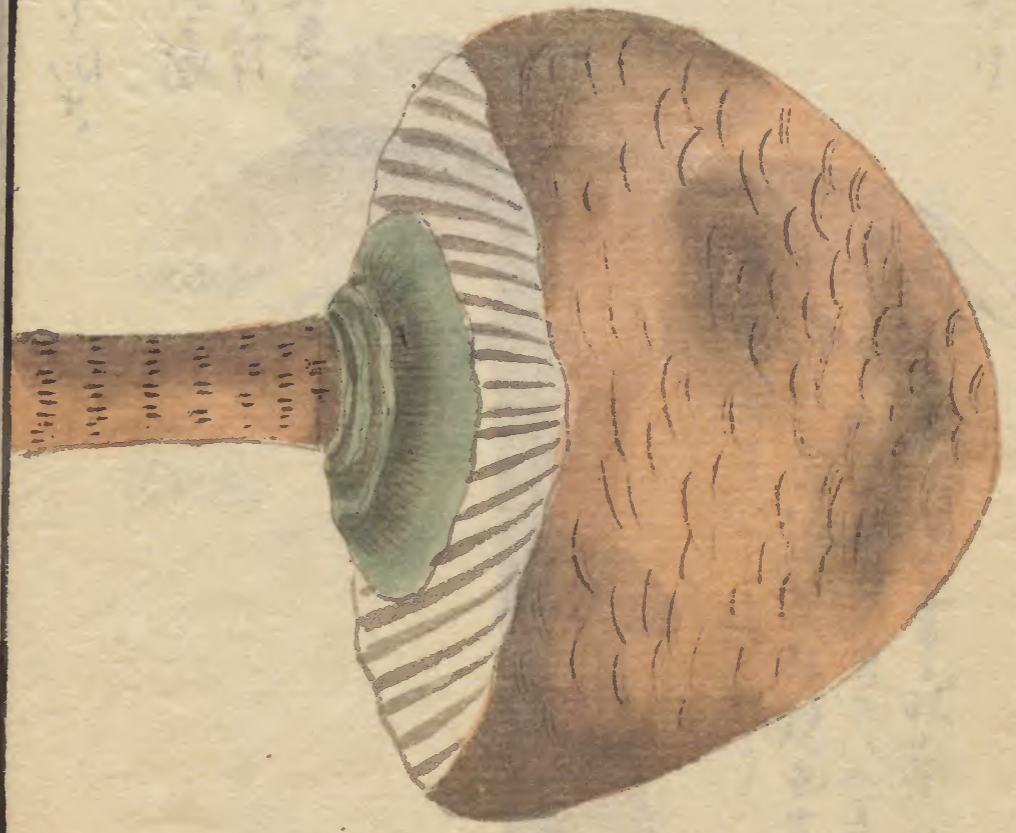
菌譜に載る菌  
去く状りたけ  
に似た村大毒あ  
りと



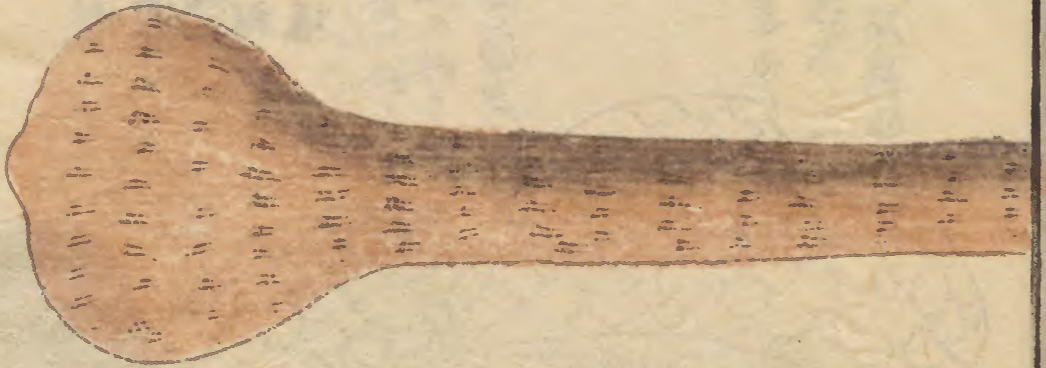


本草綱目 卷之五十一

シユンクスフーチユス 物印モノノシ 子コ 載ノリ 圖



シユンクスフーチユス



本草綱目 卷之五十一

十二



すゝたけ

廢物に生ずる菌史子樹陰及莫推  
の中み生じ脚長く緻密  
二三寸に至る面法黒新  
紋あり縞白所多乗ふ堪  
はといへり



たまこたけ

菌譜に載る菌古く状卵の如く  
蓋茎とも白色殊短なり水を  
折れ其裡黄色を基あり食ふ  
はうと云ふなり

つらたけ

廢物に生ずる菌史子樹陰史子  
茎皆黒黒鶏の羽の如き者あり  
り茎肥半の形覆蓋の如く各同  
くして異種の物をいへり





天ぬかやたけ

廣物字生  
栽る図



全

菌史子載る図

てんくたけ

菌史子載る図方々面大身脚長く  
底別れり柄を生し或は蜂窠眼  
を有或は細鍼穿孔を有純白  
の者あり白くして灰色帯る物  
あり灰黒ふして白く点紋あり物  
あり底黄を帯る者あり之を  
碎けに臭氣ありて八月始て古墓  
の辺に生れ其毒甚く劇し誤てこれ  
を食へば死にといへり

全 二種

菌譜子載る図方々  
蓋大者して灰色色茎  
の半は赤色者して蓋上  
に白星を有る人を殺  
すといへり





てんくたけ

信陽菌謬子載る図  
古く其大々他菌と異  
形状忍るへり之名目  
といふ古く害ありと云  
時これを啜る者あり  
害かたといへり

全

菌謬子載る図  
云状志りたけ  
み似て茎の太  
う七寸身色赤  
志りみ似て大  
毒あり人を殺  
すと云り



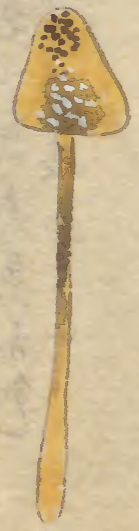
てんくたけ

菌史子  
載る図



一種

楠本氏  
の図





ぬきぐりいくち

信陽菌譜に載る  
全書に載るが  
うも似て稍異の味  
淡みして食ふと堪  
は身緻滑なる故に  
名くといへり菌史に  
結縷叢中に生ず  
赤褐色粘涎あり  
又可に外腹を去り  
て食ふが賢金沢  
の人之を志いたけし  
りかとあり



ありいくち

全書に載るが  
好て料とせし表黄赤色  
裏に蜂巣眼ありと

信陽菌譜に載る  
去く面茶褐色や  
の羽子似たり故に冬  
背灰色味淡美と云

やまごりたけ

菌譜に載るが  
蓋厚く茎ふとくや  
まごりの羽子似たり  
裡に蜂眼を緑色にせ  
食て味甜淡と云れと  
毒ありと





しとふといくち

信陽菌譜に載る菌  
ちく又時候坊と名く  
肥質灰色味冷こと  
又云一種苦味を帯ふ  
る物毒ありと

よふいんち

菌史に載る菌云く  
黒いくち似て黄面  
黒斑あり宛と虎  
の斑の如く背白く茎  
赭色鱗文ありと同  
書に毒菌の類入り



黒いくち

廢物字生に載る菌史に  
黒く緞子て背白く蜂巣  
眼を有る茎に緞あり白色  
粘滑秋の間山中に生すと  
全書に毒菌の類入り





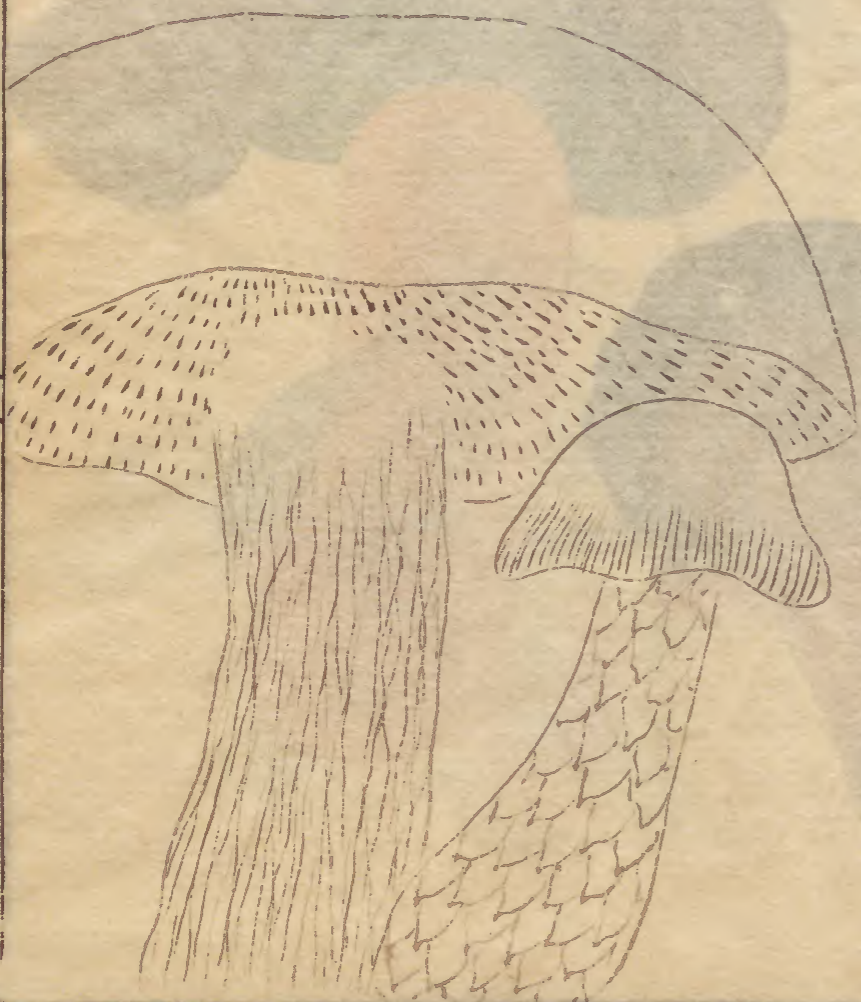
おひくち

廢物写生小載る図  
菌史子今ありて甚厚  
灰質赭紋羅網の如く  
背冷黒茎赭色者山中  
湿知の間あり又今  
茎皆純黒にして面跡  
原をわんものありと



おひくち

廢物写生小載る図  
菌史子質肥て面黄  
褐背茶色蜂窠眼  
あり茎灰色梁黄  
皺紋鱗の如く山林中  
子生といへり全書子  
菌の毒類入り





本草綱目卷之五十八

か子いくちの一種

武州雑司ヶ谷  
山中子出り食用  
とあり

全

武州道灌山子産



全

物印  
載る  
子



本草綱目卷之五十八

十九



はくとりやいのす

信陽菌譜に載る図  
云くこれを採り置り  
盛り蠅これをあむれり  
醉死すと

さいとりもたせ

日光菌譜  
に載る図



はいのふす

武州の産  
毒あり食  
ふへりふん

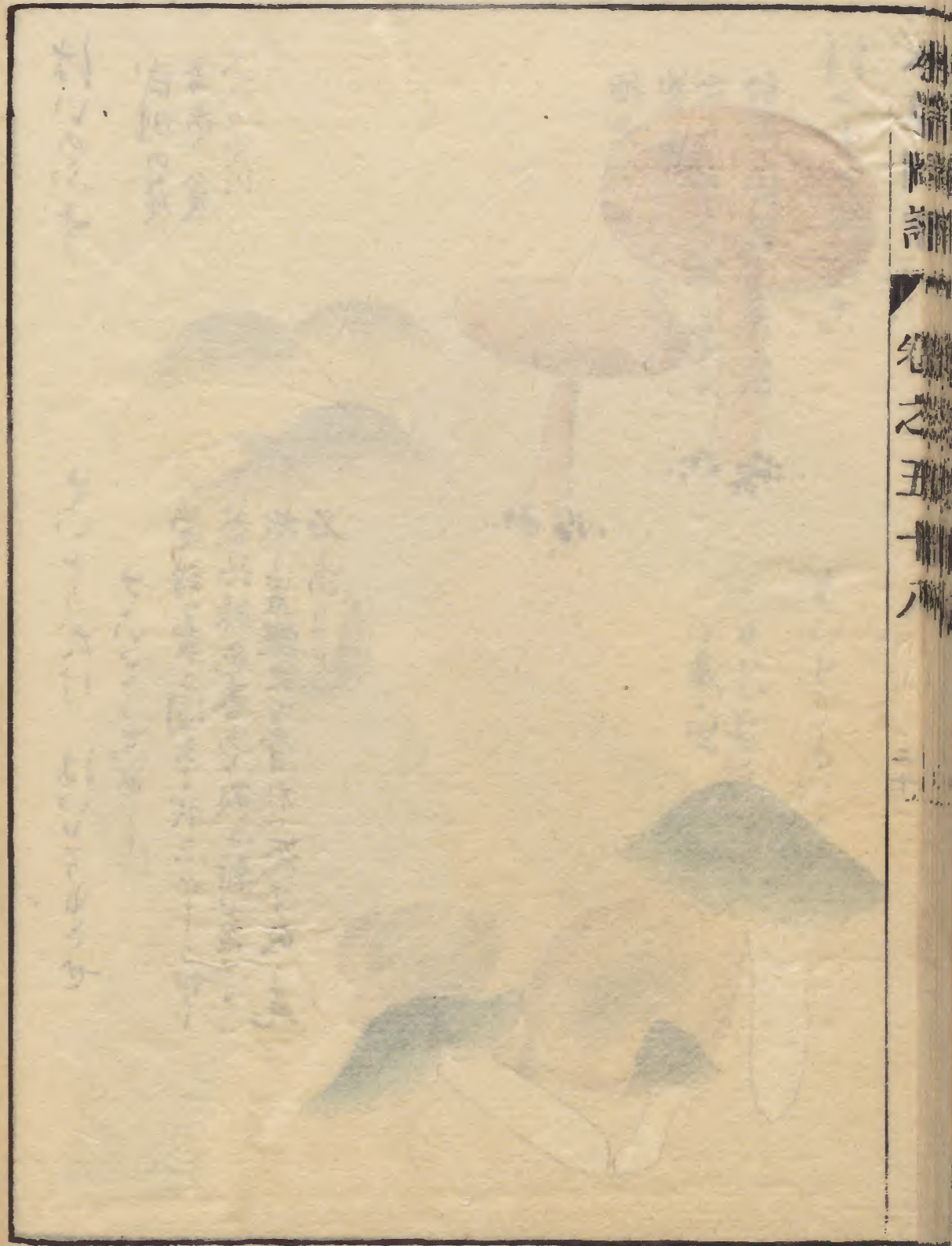
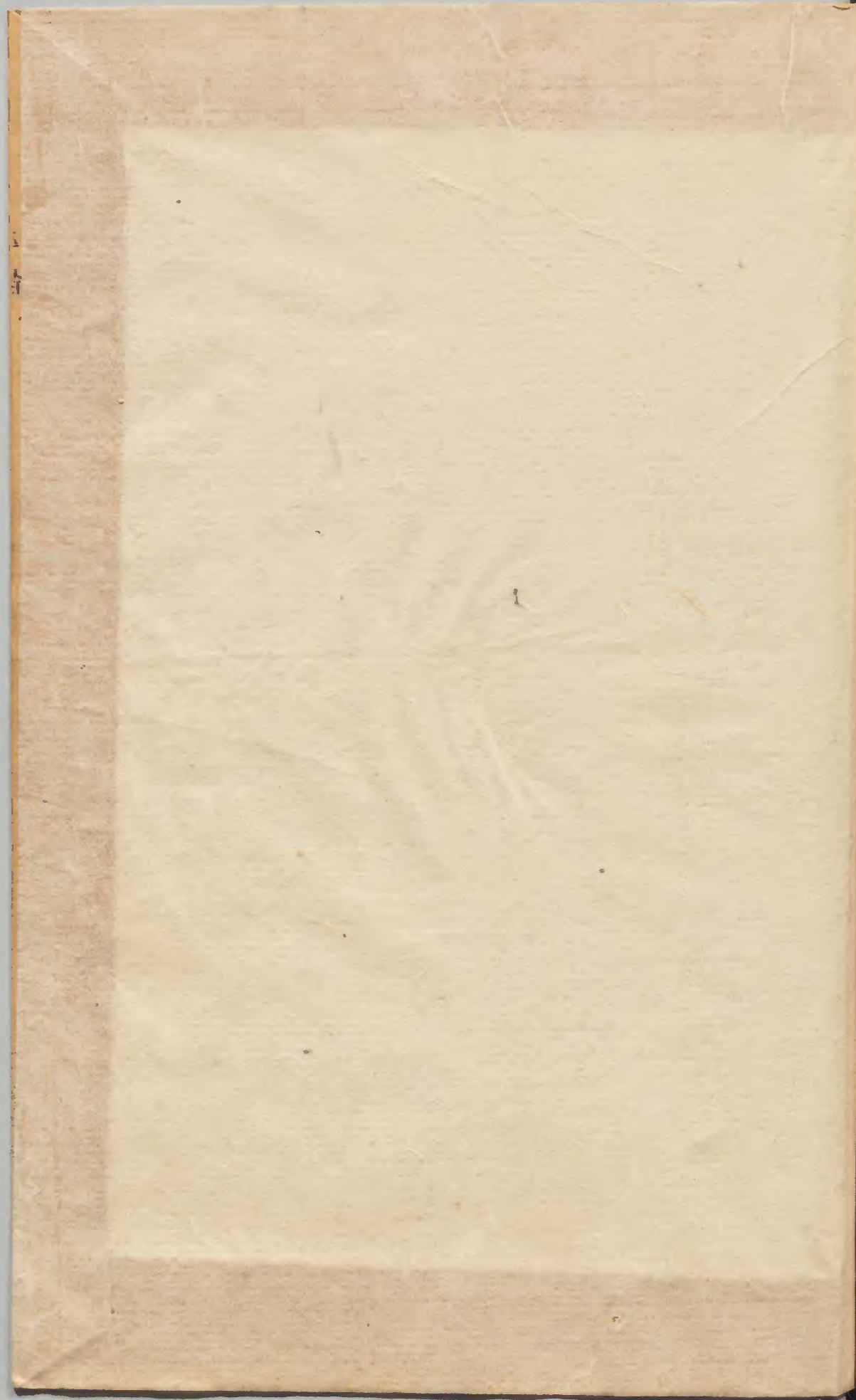
さいとりだけ はいとりもたせ

さいとりため

菌譜に載る図古く状ためりの如く  
蓋淡綠色毒あり飯に雜せ食すと  
撒し置蠅之を嘗れり死す故に此  
名ありと







御  
清  
神  
之  
五  
十  
八

御  
清  
神  
之  
五  
十  
八  
御  
清  
神  
之  
五  
十  
八  
御  
清  
神  
之  
五  
十  
八



